

1 今年度の取り組みと自己評価

【自己評価の基準】

A：十分達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：まったく達成できなかった

(1) 教育活動への取組と自己評価

取組目標	実施した方策	主な評価指標	自己評価
<p>学校経営・組織体制</p> <p>【1.組織化・危機管理】 個々のコンプライアンスが学校改革レベルになる。それぞれの分掌業務が他の分掌に好影響を与える。学校全体が互いに切磋し向上するチームになる。</p> <p>【2.人材育成、授業力向上、研修】 ラーニング・オーガナイザーを育成する。個々の授業力が高水準になる。個々の業務遂行力が高水準になる。</p> <p>【3.ライフ・ワーク・バランス】 本校スタッフ全員が生徒のロールモデルになる。「チームがワークする」組織になる。</p> <p>【4.施設・設備の整備】 ○学びやすい環境が作られている。安心安全が確保されている。居心地が良い空間になっている。図書館の利用頻度が高い。</p>	<p>次期中期計画の策定と実施。自己申告制度の活用。ミドルリーダー研修・OJTの実施。服務について校内研修の実施。特色化PTによる提案。学校要覧の作成。</p> <p>校内研修・OJTの実施。先進校視察の実施。国・都、民間の研修参加の促進。授業観察・授業見合の実施。</p> <p>キャリア教育・産社の共有。年休取得日数・勤務時間制限目標の設置。業務改善（組織化・効率化・明確化）。学校業務支援員の活用。</p> <p>学習環境の整備・保全。グラウンド改修工事。 居場所カフェ、クワイエットルーム、自習スペース等の本格的設置・運営の開始。図書館の利活用。 居心地プロジェクトによる、生徒、教員チームの共同。</p>	<p>「私は、関連の部署と協力して日常の教育活動に当たっている。」（教員95.3%） 服務について校内研修の実施4回</p> <p>「私は、分かりやすい授業をしている。」（教員95.3%） 「私の授業では、生徒は意欲的に学習に取り組んでいる。」（教員95.3%）</p> <p>「私は、仕事が充実していると感じている。」が、昨年度より、7.9ポイント上昇している。一方、病気休職者が年間を通している状態が続いている。</p> <p>「小台橋高校の施設・設備は整備されている。」（生徒78.3%）</p>	<p>【達成度 B】</p> <p>開校3年目となり、教職員が16名増えたが、分掌内の連絡、分掌間の調整を徹底し、組織体制の構築、円滑な学校経営を行った。</p> <p>校内研修を月1回実施し、生徒理解と対応力の向上を図った。若手教員の研究授業参観を促し、教科の枠を越えた活発な議論を行った。</p> <p>業務の充実感と量及び質はイコールではない。産業医や専門家を交え、改善点を探る必要がある。</p> <p>ハードは、日々整ってきている。6年度における、それぞれのソフト活用について、7年度ブラッシュアップしていく。</p>
<p>募集・広報（地域交流等）</p> <p>【5.ステークホルダーの活用】 本校関係者の訪問数が増加する。○<u>地域の方の評価が高い。</u></p> <p>【6.式典】 儀式的行事の意味を生徒に理解させる。 生徒の帰属意識が向上する。</p>	<p>学校運営連絡協議会、学校評価、防災教育推進委員会における意見交換。授業公開の実施。地域への情報発信。ゼミや課題研究での地域連携、授業及び部活動による地域貢献活動の計画的実施。 校歌、式歌斉唱指導。 儀式的行事の円滑実施。綿密な実施計画の作成及びリハーサル。</p>	<p>授業公開のべ参加者数383人。 「小台橋高校は良い学校だ。」（地域 有効回答の90.9%、わからない全体の50.7%）「学校から定期的に情報提供・発信がされている。」（地域 有効回答の32.1%、わからない全体の58.2%） 事故ゼロ。</p>	<p>【達成度 A】</p> <p>学校運営連絡協議会を3回実施した。学校評価を実施し協議員の理解を深めた。授業公開を2回実施した。</p> <p>第一回卒業式は、卒業生61名。在校生、卒業生が、それぞれの役割を自覚して取り組んだ。</p>

<p>【7.募集広報活動】 教育関係媒体を中心に、様々なツールを積極的に活用して広報する。教育関係者の視察訪問を積極的に受け入れると共に、校外の先進事例収集を推進する。説明会来場者を増加させ、入選倍率を確保する。選抜した受検者が本校に適合している。</p> <p>【8.入学者選抜】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校が求める生徒像と受検者が適合している。 ・入学選抜業務の適正な実施・管理。 	<p>学校見学会・説明会の開催。外部説明会への参加。中学校・適応教室・フリースクール・塾等の訪問。Web、SNS、オンラインを活用した広報を展開。広告記事の配信。学習成果の広報。</p> <p>入選に関わる課題の共有。実施計画の作成。適切な作文問題の作成。わかりやすい実施要項の作成。</p>	<p>中進退倍率0.9倍、入選応募倍率1.09倍、説明会参加者数1875人、HP更新257回、事故0。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学選抜時の作文、面接評価 ・学校説明会等アンケート調査 	<p>学校見学会・説明会の他、学校内外でのPR活動、出前説明会を工夫した。また、追加説明会を実施するなどきめ細やかな対応も行い、都立高校の応募倍率が苦戦している中で、よく検討した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校が求める生徒像を反映した作問委員会の実施と問題作成の工夫をした。 ・本校が求める生徒像に沿った実施要項を作成し、適切な入選業務を実施できた。
<p>学習指導</p> <p>【9.教育課程の編成】 平成7年度実施に向け教育課程を作成する。全ての教職員が履修登録システムを理解し履修登録の指導ができる。履修・学業成績・出欠席等における生徒の現状が把握できる。</p> <p>【10.学習指導】 ◎教科・科目においてルーブリックの完成度を高め、観点に応じた学力向上を図る。体力テストで東京都平均とする。生徒の成長を複数の方法で評価する。生徒の自己肯定感の上昇。</p>	<p>グランドデザインとシラバスによる指導目標の共有。教科主任会の開催。履修登録システムの錬成と時間割の編成。評価方法の検討・整理。</p> <p>年間学習計画とルーブリックの作成。伸び率の定量的な報告。教材の研究と開発の奨励。定性的評価活用方法の研究。キャリアパスポート活用。肯定的評価の積極的活用。</p>	<p>令和7年度教育課程届提出。教科主任会開催4回。</p> <p>教科会の定期的な実施と報告。体力テスト結果は東京都平均を下回った。</p>	<p>【達成度 B】</p> <p>教科主任会を開催し、完成年度に向けた教育課程を作成した。履修登録システムを理解し、全ての教職員が履修指導できるようになった。</p> <p>教科会の報告や成績会議で現状把握や課題意識の共有を行った。体力テストの結果は東京都平均を下回ったが、運動を楽しむ意識をもたせた。</p>
<p>進路指導</p> <p>【11.キャリア教育】 ◎「<u>小台橋モデル（課題研究を中心とした学びの体系）</u>」を完成する。将来設計によって生徒の満足度が上昇する。各ゼミが活性化する。</p> <p>【12.進路指導】 生徒のマッチングを重視する。総合選抜型入試に対応する。</p> <p>【13. 学習評価、調査書・ポートフォリオ】 生徒の成長を複数の方法で評価する。生徒の自己肯定感の上昇。</p>	<p>地域と連携した外部人材の活用。体験的な学習の実施。FD関係の学習計画の完成。上級学校体験、学問研究の実施。模試、夏季講習の実施。模試結果分析会、進路面談等の情報共有のシステム構築。</p> <p>上級学校体験、学問研究の実施。模試、夏季講習の実施。模試結果分析会、進路面談等の情報共有のシステム構築。</p> <p>観点別評価の実施。定性的評価活用方法の研究。キャリアパスポート活用。肯定的評価の積極的活用。</p>	<p>「私は、小台橋高校のキャリア教育（小台橋モデル）を生徒に説明している。」（教員70.3%）。 「私は、自分で作る時間割に満足している。」（生徒84.8%）</p> <p>「私は、進路に関して有益な情報提供を行っている。」（教員87.5%） 夏期講習講座数25講座のべ249名参加。3月に校内模試実施。 卒業生の進路は大学37.7%、専門31.1%、就職13.1%、その他18.0%。</p> <p>全教員によるルーブリックの観点ごとの評価による伸び率の定量化。 「私は、学習面で自信がついた。」（生徒53.8%）</p>	<p>【達成度 B】</p> <p>芽吹祭で「ゼミ3」の課題研究中間発表を行った。学習成果発表会でゼミごとの成果を発表した。時間割作成により将来像を描くことで生徒の満足度が高い。</p> <p>夏季休業中に上級学校体験、学問研究を実施。初の卒業生の進路は希望に応えることができた。</p> <p>年度当初に観点別評価のためのルーブリックを作成し、評価の観点によって学習評価を適正に実施することができた。</p>

<p>生活指導</p> <p>【14.生活指導】 人間関係のトラブルが少ない。学校生活が安心・安全と言える。心の成長（生活習慣、協働資質、ビジネススキル）が促進されている。学校生活の満足度、学校への定着率が高い。</p> <p>【15.体罰・いじめ・自殺への対応】 交流プログラムが未然防止につながっている。道徳教育が充実する。</p>	<p>生活支援体制の再構築。OSLの周知・ルール違反未然防止の徹底、交通安全指導・マナー指導の実施。</p> <p>交流プログラムでの暴力・いじめ・自殺の未然防止。道徳の年間ホームルーム指導計画への位置づけ。人間と社会の設計。</p>	<p>特別指導件数13件 「私は、学校生活のルールや社会のマナーを守っている。（1.7ポイント増）、「私は、安全で安心な学校生活を送っている。（3.4ポイント増）</p> <p>体罰、いじめ、自殺全て0件であったが、体罰や暴言を無くすための取り組みをしている（教員98.4→生徒81.4%） いじめを無くすための取り組みをしている（教員93.8→生徒80.9%）と乖離している。</p>	<p>【達成度 B】</p> <p>集会ごとに丁寧な指導を全体的に浸透させていることに加え、巡回、担任の丁寧な指導をきめ細やかに行なった。</p> <p>教員と生徒の感じている差を埋めていく努力が必要。</p>
<p>特別活動・部活動</p> <p>【16.特別活動の実施】 ○生徒のチームワークができてきている。ホームルームが居場所になる。生徒会活動が活性化。生徒の自覚・共助・公助の意識を高めている。</p> <p>【17.課外活動の実施】 校内で授業以外に学習する生徒が増加する。外部交流や活躍をする部活動が出現する。ボランティア・勤労者が増加する。</p>	<p>各行事の実施要項作成。校内美化活動の取組推進。年間ホームルーム計画作成。生徒会活動における安全活動や地域貢献活動の実施。避難訓練・防災教育の実施。</p> <p>自習室やゼミ室など学習の場の提供運営。オンライン学習の活用促進。部活動年間指導計画の作成。ボランティア・就職支援策。</p>	<p>「学校行事に満足している」が、一昨年9.3ポイント(73.8→83.1)の伸びがあったが、昨年度は、-1.4ポイントとなった(83.1→81.7)。</p> <p>部活動加入率30.3%と、昨年度より、わずかに微減。</p>	<p>【達成度 B】</p> <p>本校舎が完成し、様々な学校行事が施設を有効に活用して実施できるようになった。生徒が主体的に考え、行動できる学校行事を、さらに検討していく必要がある。</p> <p>自習室をはじめ、授業外での学習環境を確保した。部活動時間、顧問の確保は難しいが、生徒からの要望は、徐々に高まっている。引き続き、対応を検討していく。</p>
<p>健康づくり</p> <p>【18.健康・保健指導】 生徒が痛み、悩み、迷い、困り度に応じて相談ができる。生徒の居心地の向上を図る。医療・福祉・警察等隣接領域や外部と連携し橋渡しする。教育相談的な課題の最終解決がなされる。</p>	<p>校内のセンター的機能としての教育相談分掌の構築。年次ワーカー業務の確立。外部連携体制の整備。見立てに基づき計画し解決するための教育相談委員会の実施。校内別室指導推進事業の活用。「校内居場所カフェ」の設置。交流スキル・レジリエンスの向上推進。</p>	<p>「小台橋高校に相談できる人かい」が6.7ポイント、「私は精神面で成長した」が3.9ポイント、昨年度より上昇した。また、「小台橋高校は、悩みや迷いが生じたときに支援を行ってくれる」は、2.8ポイント上昇した。少しずつであるが、校内に頼れる「人」の存在が見えてきた。</p>	<p>【達成度 B】</p> <p>教育相談部が中心となり、外部機関との連携や、校内外部スタッフ仕組みづくりの歯車がかみ合ってきている。</p>

(2) 重点目標への取組と自己評価

取組	自己評価
<p>重点項目</p> <p>(ア) 学校経営</p> <p>◎すべての教職員が、常に生徒の安全、業務の改善・効率化を検討し、昨日よりもプラス1の前進を積み重ねる努力をする。</p> <p>教職員一人一人のライフ・ワーク・バランスの実現に取り組む。</p> <p>*年休取得15日以上、校内諸会議時間50分以内、定時退勤日、勤務時間外</p>	<p>【達成度 B】</p> <p>ほぼ達成</p> <p>生徒に対する、教員一人一人の努力があったように思う。</p> <p>引き続き、多様な生徒の支援に取り組んでいく。</p>

の在校時間の指導と自己管理の推進。

(イ) 募集広報

◎説明会来場者が増加し入選倍率を確保する*。

*学校見学会期間（7月から9月）、学校説明会期間（10月から11月）、願書配布期間（12月から1月）で中学3年生の実来場者数をそれぞれの期間で合計360組以上とする。中進対倍率を1.1倍、入選応募倍率を1.2倍とし、事故0で入選業務を完遂する。

*応募倍率1.2倍、学校説明会来校者数1,000名以上、ホームページ更新等情報発信年間200回。

(ウ) 学習指導

◎各教科・科目において、「学びなおし」の手だてを工夫し、生徒それぞれの学力向上を図る。誰一人取り残さないための学習支援を行う。

**生徒による授業評価満足度80%、教員相互の授業参観年間2回以上、ICT機器・学習支援ソフト活用等の授業力向上に関するモデル授業各学期実施、単位取得率向上、年間中途退学者率減少、学校外学習単位認定の促進。

(エ) 進路指導

◎多様な進路希望に応じた進路指導の充実を図る。「小台橋モデル（課題研究を中心とした学びの体系）」が完成する。

**一人一人の生徒に寄り添った指導を工夫する。進路決定率75%を目指す。

(オ) 生活指導

◎学校生活の満足度、学校への定着率が高める。

***学校に満足している生徒が8割になる。学校に定着している生徒が8割になる。個々の生徒理解を進め、基本的な生活習慣確立の支援。問題行動の未然防止（体罰ゼロ・いじめゼロ・暴力ゼロ、自殺ゼロ）、外部団体・人材の発掘と連携強化を図る。

(カ) 特活その他

◎運動系文科系問わず、放課外活動の中で楽しみや喜びを見つけ、仲間とともに成感を味わう。

**部活動加入率60%以上、学校行事満足度80%。

ライフワークバランスは、個人差が激しく出た。

達成

中進退倍率0.9倍、入選応募倍率1.09倍、説明会参加者数1875人、HP更新257回、事故0。

募集広報については、対面での活動は、ほぼ手を尽くした感がある。学校説明会を充実させるとともに、SNSやネット上での広報活動をさらに工夫していきたい。

達成

授業の満足度は、88.8%であった。教員一人一人、教科ごと、様々な形で学習支援、授業改善に取り組んでいた。今後は、外部単位の取得方法、内容の検討、さらにはオンラインでの学習支援について、対応を加速させる必要がある。

ほぼ達成

小台橋モデルは、ほぼ形が出来上がった。

卒業生61名。進路決定率は、87.5%だったが、進路に関する有益な情報を受けているのは、74.5%だった。

ほぼ達成

学校生活に満足は87.1%、定着率は74%だった。

大きな事故はなかったものの、個別の対応は多岐にわたった。学校の対応力を高めるとともに、未然防止の取り組みを検討する必要がある。

もう少し

部活動加入率30.3%、学校行事満足度は81%だった。

課外活動の在り方、運営方法の確立がまだできていない。

<p>(キ) 健康・保健指導</p> <p>◎生徒一人一人が安心して学校生活を送れる居場所を提供する。多様なニーズに対応できる教育相談体制を整える。</p> <p>***教育相談に資する勉強会、研修の充実。外部機関と連携した相談体制の整備・拡充。チャレンジスクール間での情報交換・連携の推進。</p>	<p>もう少し 着実に積み重ねてきているが、確立したとは言えない。 特にチャレンジ間での連携、研修は必要。</p>
--	---

2 次年度以降の課題

(ア) 学校経営

- ・学校が、学びやすく、安心安全の確保された居心地の良い空間になっていること
- ・ミドルリーダーの活用と若手教員の育成
- ・地域との連携強化、外部機関との連携強化。
- ・ライフ・ワーク・バランスの確保

(イ) 募集広報

- ・本当に小台橋に入りたい生徒へアプローチし、さらに入選倍率を確保していくこと。
- ・学校 PR 動画配信など、戦略的な広報活動の充実

(ウ) 学習指導

- ・主体的、対話的、深い学びの視点に立った授業改善
- ・基礎基本を重視するとともに、自分のペースで学習を進める支援
- ・総合学科の特性を生かし、職業系を含む専門科目と多彩な体験学習の充実

(エ) 進路指導

- ・他社との繋がりを大切にしながら、自ら学ばせること。
- ・履修登録を活用し将来設計によって生徒の満足度が上昇すること。
- ・各ゼミが活性化すること。
- ・希望した進路決定に対応すること。

(オ) 生活指導

- ・基本的に、生徒自らが校則を考え、学校を作っていくスタイルへの変換にシフトすること。

(カ) 特別活動・部活動

- ・運動系文科系問わず、放課外活動の中で楽しみや喜びを見つけ、仲間とともに達成感を得ること。

(キ) 健康づくり

- ・教育相談の充実と心のケアに配慮したきめ細やかな指導の確立